



MOROYAMA

PHOTO SNAP NEWS

最近のイベント&ニュースを写真で紹介

若い消防団が誕生！

毛呂山消防団「学生機能別団員」発足式

2月1日、埼玉医科大学で毛呂山消防団「学生機能別団員」発足式を行いました。学生機能別団員は、巨大地震等の大災害に備えるために地域の大学生などの若者を機能別団員に任命し、消防団の活動の後方支援や救護所等の応急救護活動を担う事で、被害の軽減を図ることを目的として発足されました。今回は埼玉医科大学医学部、短期大学、埼玉医療福祉看護専門学校

の生徒が団員となりました。6年制の医学生への参加は全国でも事例が少なく注目される取り組みです。また看護学生の事例は県内でも2番目となります。消防団に参加することで、町への親しみを肌で感じることができ、防災に対しても興味を持つことにより将来の入団や、他の市町村でもこの経験を生かし防災リーダーとしての活躍が期待できます。



災害時に備える

防災講演会



1月20日、東公民館で、自主防災組織の皆さんを対象とした『防災講演会』を開催しました。今回は、災害時応援協定を締結して

いる埼玉司法書士会から吉田健さんを招いて、『災害時の法律相談から考える』をテーマに、法律の観点から災害に対する備えについて講演しました。

「交通安全は家庭から」 啓発を続けて50年

毛呂山町交通安全母の会

設立50周年記念式典

2月10日、ウィズもろやまで毛呂山町交通安全母の会設立50周年記念式典を開催しました。式典では感謝状の贈呈、交通安全宣言、記念講演などが行われました。毛呂山町交通安全母の会は、昭和43年4月に近隣市町村に先駆けて結成されました。子どもや高齢者を



交通災害から守り、日常から交通安全教育を推進するため、高齢者には高齢者世帯訪問や高齢者安全の日

啓発キャンペーンを実施。子どもたちには親子自転車教室、交通安全フェア、新入学園児への交通安全教室を行っております。また各季交通安全運動期間中には、街頭啓発活動や広報車で町内を巡回し、交通安全の呼びかけをして、多くの人に交通安全を身近に考えてもらい、交通事故のない、明るい平和な地域社会づくりに努めています。



親子自転車教室



高齢者安全の日
啓発キャンペーン

異なるチームや種目を越えて交流

平成 30 年度スポーツ少年団交流会 (第 29 回)



2月9日、総合公園体育館で、スポーツ少年団交流会が行われました。野球やサッカーなど様々な種目の団で構成されている「毛呂山町スポーツ少年団」。当日は、そうした種目の垣根を越えた混合チームを組み、「ボール運びリレー」や「大縄8の字跳び」の種目で競い合いました。



最後に行った、保護者や指導者を交えてのビンゴゲームで、会場がさらに盛り上がりました。



地域で育むコミュニティ

子育て講演会

1月26日、東公民館で、子育て講演会を開催しました。2部構成で行い、第1部は「コミュニティ・スクールについて」をテーマに、西部教育事務所の高橋洋興さんと宮澤忍さんが、講師として講演。第2部は、毛呂山町教育委員会の土屋浩一さんが「毛呂山町の教育」について講演を行いました。当日は、子育て世代のお母さんを中心に、約140人が参加しました。



空き家の利活用

「空き家対策事業支援・空き家調査員育成プロジェクト」事業成果報告会

2月6日、ウイズもろやまにて「空き家対策事業支援・空き家調査員育成プロジェクト」事業成果報告会が開催されました。この事業は毛呂山町の空き家を活用したり売却したりできるかを調べて所有者の相談にも乗る「空き家調査員」を養成する事業で、不動産鑑定会社「三友システムアプレイザル」が国土交通省から請負い、昨年11月から町と協力し、調査員の養成研修を始めました。成果報告会では、実際に空き家調査員が調査を行った毛呂山町所在の物件に対する「空き家トリアージ」による空家分類作業の検証結果を発表しました。また同事業の成果をとりまとめた「空き家調査員マニュアル」「空き家調査表」「空き家トリアージマニュアル」が町長に直接手渡されました。

